

ベトナムの醸造酒類・蒸留酒市場

2013年、蒸留酒・醸造酒類の売上は合計約5億ドルに達し、2005年と比べて1.8倍に大きく増加した。それぞれ内訳を見ると、蒸留酒のうちウォッカが半分以上を占め、醸造酒類では葡萄ワインが60%以上を占めている。

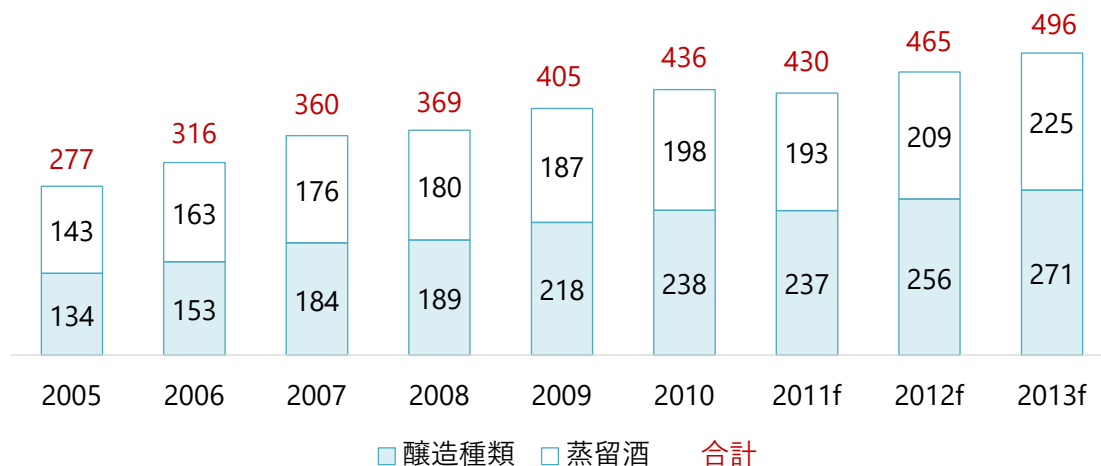
蒸留酒は主に中国、香港、シンガポールから輸入されており、醸造酒類については歴史的に高い競争力を持つフランスとイタリアが多かったが、近年では米国、チリなどの新興市場からの輸入量が徐々に増加している。酒類の日本からの輸入額は2005年の30万ドルから2013年には270万ドル（年平均成長率39%）に達しており、日本の酒の人気は年々高まっているが、市場に占める割合は小さい。

数量ベースで見ると、蒸留酒ではHanoi Liquor（Habecoの子会社Halico）、醸造酒類ではThang Long Liquorが代表的な企業である。Halicoは1955年に設立され、国内で最も人気があるVolka Hanoiを生産し、2012年には蒸留酒市場シェアの51%を占めた。一方、醸造酒類ではThang Long Liquorが最大手企業であるが23%のみを占め、過半数を獲得する企業はない。売上ベースでは、両社のシェアはそれぞれ全体の約20%、約3~4%と小さくなる。これは外国製品の価格が国内製品よりも平均約3~4倍高いことに起因する。輸入された高価な酒類は主に都市部の高収入層や旧正月などの特別なイベント時に消費される。

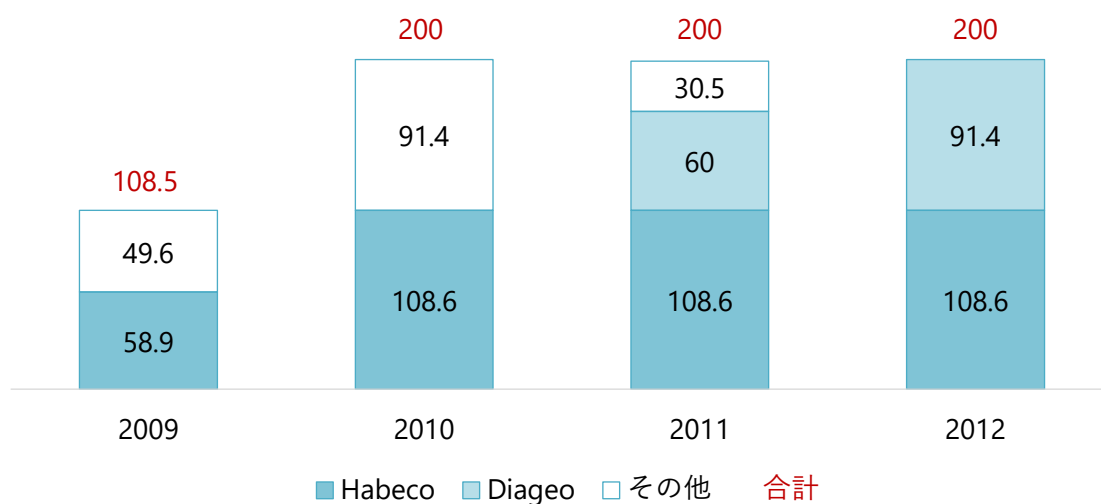
外資の主要プレーヤーはPernod Ricard、Diageoである。Pernod Ricardは醸造酒類・蒸留酒の両方を扱う企業であり、2011年に設立され、Chivas Regal、Absolut Vodkaなど、世界的なブランドで有名である。Diageoは蒸留酒においてHalicoに次ぐ第2位であり、2007年にベトナムに子会社を設立した。同社はJohnnie Walker、SmirnoffのPR活動を実施し、また2011~2012年にかけて9,700万ドルを投資し、Halicoの株式の45.5%を取得している。

アルコール飲料に関するベトナムの法律はかなり厳格で複雑であるが、近年実施される関税の緩和は外資企業にとって追い風になりそうだ。2013年5月、醸造酒類・蒸留酒の輸入関税は48%から45%に緩和された。また、TPP調印後はさらに関税が減少すると予想され、輸入量が増加すると見込まれる。しかし、密輸入、偽造製品の横行、アルコール飲料の消費抑制を目的とした消費税増税の政府方針などの懸念点も存在し、市場は今後数年で大きく変化する可能性がある。

醸造種類・蒸留酒の売上（百万ドル）



Hanoi Liquor の出資比率（2009～2012年、十億ドン）



参照：

1. <http://ddd.com.vn/thi-truong/thi-truong-ruou-vang-viet-nam-con-nhieu-tiem-nang-20131216052710535.htm>

